７章 夜間景観ガイドライン　目次

１ 夜間景観ガイドラインの目的と対象

（１）夜間景観ガイドラインの目的 7-1

（２）夜間景観ガイドラインの対象 7-1

２ 夜間景観形成の方向

（１）夜間景観の形成の基本的な考え方 7-2

（２）大阪らしい「４つのあかり」に基づく夜間景観の形成... 7-2

（３）大阪を代表する「４つのエリア」における夜間景観形成. 7-4

３ 夜間景観形成の手法の解説

（１）夜間景観形成の手順 7-5

（２）魅力的な「４つのあかり」を生み出す照明手法等..... 7-7

❶ 俯瞰するあかり 7-9

❷ 水辺のあかり 7-11

❸ 界隈のあかり 7-15

❹ 個のあかり 7-21

（３）大阪を代表する「４つのエリア」の特性を生かす照明手法等 . 7-24

１）大阪城公園周辺 7-24

２）中之島等 7-27

３）ベイエリア 7-30

４）御堂筋とその沿道 7-33

景観コラム

◎場所の魅力を磨きあげ シビックプライドを育む 夜間景観
～国際観光都市に求められる現代の夜間景観づくりとは～
（大阪大学大学院非常勤講師 長町 志穂） 7-36

1. 夜間景観ガイドラインの目的と対象

（１）夜間景観ガイドラインの目的

・本ガイドラインは、大阪を代表するエリアを対象にした、主要な視点場からの夜間景観の誘導に係る景観形成基準の解説をはじめ、大阪らしい 4 つのあかりの魅力を引き出し、市域全体の夜間景観の魅力を高めることを目的としています。
・具体的には、届出対象に係わる建築物等の設計者や事業者に向けた具体的な照明手法等の解説に加え、建物所有者や照明設置後の運用の主体となる建物管理者等の理解促進を図るための夜間景観形成の考え方や、届出対象にとどまらない、市民の方が行う夜間景観形成の手だてとなるアイデア等を掲載しています。
・また、建築物等のデザインと合わせた夜間景観形成の考え方、夜間景観形成の手順、景観計画における夜間景観に関わる方針や基準の解説、基準に準拠した照明手法や良好な事例、照明技術に関わる一般知識など、夜間景観形成に係る一連の内容を取りまとめています。
・なお、本ガイドラインは、官民協働による光のまちづくりを推進する光のまちづくり推進委員会が作成した技術指針等、同委員会の活動内容を踏まえたものとしました。

（２）夜間景観ガイドラインの対象

・景観計画において届出対象となっている建築物や工作物、屋外広告物の照明を主たる対象としますが、届出対象となっていない大阪市域の建築物等についても参照できるものとしています。
・建築物の壁面等を利用したメディアファサードなど夜間景観に関わる新たな技術にも対応したものとします。

2. 夜間景観形成の方向

（１）夜間景観の形成の基本的な考え方

・大阪市景観計画では、夜間景観施策の展開の方向性として、次のとおり示しています。
・大阪市の夜間景観は、全国に先駆けた新しい試みにより誕生し官民協働による取り組みにより、現在の夜間景観が形成されています。大阪の夜間景観を特徴づける「４つのあかり」に基づく、魅力的な夜間景観の形成を図るため、他の施策とも連携しながら公共施設等をライトアップするなどの演出を行います。
・また、大阪を代表するエリアにおいて、地域の夜間特性をいかした建築物の誘導と夜景づくりを図るため、大阪らしい夜間景観の典型的な４つのあかりに沿って、主要な視点場からの夜景を意識した魅力的なライトアップや歴史的景観資源に配慮した誘導等を行います。

（２）大阪らしい「４つのあかり」に基づく夜間景観の形成

・大阪らしい「４つのあかり」は、大阪の夜間景観を特徴づけるもので、中・遠景で捉えた市街地のあかりを高所から広域に捉える夜景「俯瞰するあかり」、水面に映る夜景「水辺のあかり」、一定の地区や通りの夜景「界隈のあかり」、ランドマークとなる特徴的な建物や橋梁などの単体施設の夜景「個のあかり」が典型的です。

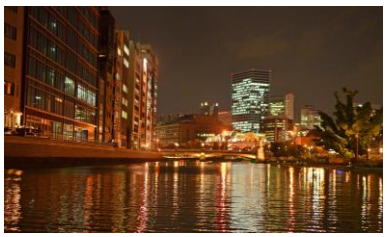
①俯瞰するあかり

・市街地のあかりを高所から中・遠景で広域に捉える夜間景観であり、高所に視点場があることが成立要件です。

中之島の夜景　※１

②水辺のあかり

・水際での水面に映るあかりとともに捉える夜間景観であり、水際の市街地とそれを望む水辺の視点場があることが成立要件です。



中之島（土佐堀川）の夜景　※１

③界隈のあかり

・照明により演出された一定の地区や通りにおける夜間景観で、地区や通りにおける演出の取り組みが成立要件です。

三休橋筋の夜景

④個のあかり

・照明により演出されたランドマークなどの単体施設の夜間景観であり、ランドマークとなる施設での取り組みが成立要件です。

建物のライトアップ（中之島）※1

・本ガイドラインは、この大阪らしい「4つのあかり」に基づき、市域全体において魅力的な夜間景観の形成が図れるよう、夜間景観形成の考え方や照明手法を示しています。

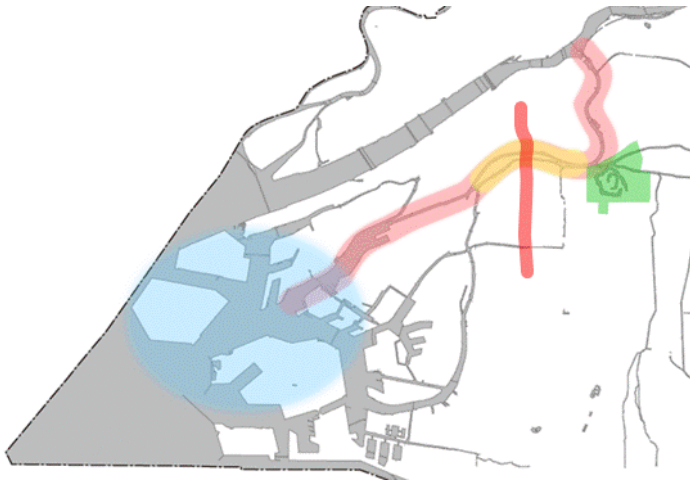
・なお、官民協働による光のまちづくりを推進する光のまちづくり推進委員会が作成した「光のまちづくり技術指針」や「エリア別光のガイドライン検討資料」では、大阪の光のまちづくりを推進していくために、光による景観づくりの考え方や、ライトアップの技術的側面等について取りまとめられています。これらの技術指針や光のガイドラインも引用しながら、夜間景観形成に係わる照明手法等の解説を掲載しています。

（３）大阪を代表する「４つのエリア」における夜間景観形成

・大阪市景観計画では、古くから市民が誇りとする魅力的な眺めが生み出された「大阪城公園周辺」、「中之島等」、また、大阪の魅力を世界に発信する絶好の機会を有した「ベイエリア」及び大阪のメインストリートとして、我が国でも類のない風格のあるシンボル的な見通し景観を形成する「御堂筋とその沿道」を対象に、大阪を代表するエリアとして夜間景観の形成を進めていくこととしています。

・この４つのエリア「大阪城公園周辺」「中之島等」「ベイエリア」「御堂筋とその沿道」を対象に、主要な視点場からの夜間景観形成を重点的に図れるように、それぞれのエリアの特性を生かす照明手法等を掲載しています。

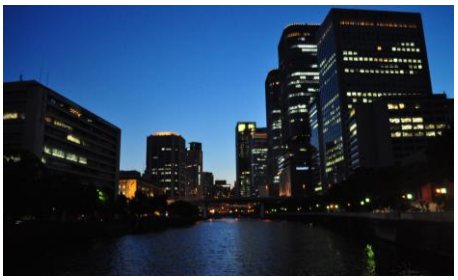
大阪を代表する「４つのエリア」



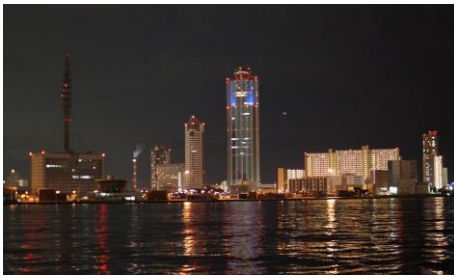
凡例

- 大阪城公園周辺
- 中之島等
- ベイエリア
- 御堂筋とその沿道

大阪城公園周辺の夜景　※１



中之島等エリアの夜景



ベイエリアの夜景

御堂筋とその沿道の夜景

3. 夜間景観形成の手法の解説

（１）夜間景観形成の手順

夜間景観形成の手順の解説

・建築物の設計者だけでなく、一般の市民の方にも、大阪らしい 4 つのあかりに基づく夜間景観形成に取り組めるように、ステップ毎に手順を解説します。

ステップ 1 昼間の景観特性と夜間の地域特性を把握	● 昼間の景観特性を把握 建築物や工作物を計画・設計する敷地の立地特性や周辺からの見え方を把握するとともに、周辺のまちの景観がどのような特性を持つのかを把握しましょう。 （景観読本 P.1-46 を参照してください） ● 夜間の地域特性を把握 夜間の敷地周辺のまちの姿や隣接する公園や河川等の公共空間の夜間の状況等を現地で確認し、夜間の特性を把握しておきましょう。また、周辺の店舗等の営業状況や周辺道路の夜間の人通りなども確認しておきましょう。 ● 計画地が景観計画区域のどの区域に位置するのかを確認 景観計画では区域やエリアの特性に応じた景観形成方針や夜間景観形成基準が定められています。区域やエリアを確認の上で、計画地に係る区域やエリアの方針や基準を確認しましょう。 （景観読本 P.1-46～P.1-94 を参照してください）
ステップ 2 夜間景観形成のコンセプトの設定	● 夜間景観形成に向けて夜間景観形成方針の確認 ステップ 1 で確認したエリアの夜間景観形成方針を確認のうえで、このエリアで建物を建てることにより、どのような夜間景観を形成するのかを検討しましょう。 ● 計画地周辺の関連計画の把握 計画地周辺で計画されている公共公益施設や大規模な面的開発等を確認し、将来的に人の流れが変化する場合など、必要に応じてそれらを加味した検討しましょう。 ● 夜間景観形成のコンセプトの設定 計画地周辺の夜間景観の特性とエリアの夜間景観形成方針を踏まえるとともに、「4 つあかり」による照明手法等を考慮し、人の動きや照明演出をどのように行うかなど、夜間景観形成のコンセプトを考えます。

ステップ３ 照明計画、 設計	● コンセプト設定を踏まえ、照明手法等の検討 景観計画ではエリア毎の特性に応じた「夜間景観形成基準」を定めています。本ガイドラインでは、基準に係わる解説とともに、照明手法等の検討のヒントとなる事例を掲載しています。これらのヒントを参考としながら、夜間景観形成への配慮や具体的な工夫の仕方を検討しましょう。 ● 隣接する空間等の状況を踏まえた夜間景観形成 照明計画・設計にあたっては、建築物や工作物のほか、敷地内の通路や広場などの外構に加えて、公共空間における光環境等にも配慮することが重要です。 「光のまちづくり技術指針」では、街路や公園・緑地など、公共空間に係わる光の解説や事例が掲載されています。これらの技術指針の解説や本ガイドラインを参考としながら、照明計画・設計を行いましょう。

ステップ４ 照明設置後の メンテナンス	● 適切なメンテナンスによる夜間照明の維持 照明の保守性は、一般的に電源の寿命等に関連し、長寿命な電源を選ぶことで、メンテナンスに係る負担は、ある程度低減できます。また、照明器具の点灯時間の制御や調光による制御など、適切な制御を検討しましょう。 ● 時間や季節ごとの調光のオペレーション等 季節や祭事で変化させる、期間を限定するなど、定期的にあかりの演出内容等を変化させるといった、調光による演出も効果的な夜景づくりの手法のひとつです。このような調光について、年間を通じて演出したり、複数の場所や面的に調光等をオペレーションすることも効果的な演出です。

（２）魅力的な「４つのあかり」を生み出す照明手法等

・大阪らしい４つのあかり「俯瞰するあかり」「水辺のあかり」「界隈のあかり」「個のあかり」のそれぞれを、魅力的にするための照明手法等を示しています。それぞれのあかりの構成要素を踏まえたうえで、効果的な照明手法等を検討するためのヒントを掲載しています。
・照明手法等は、地域や場所、ライトアップ等演出する対象等に応じ、適した照明手法等を光のまちづくり推進委員会が作成した光のまちづくり技術指針やエリア別光のガイドライン検討資料から部分引用しています。

４つのあかりの解説の構成

あかりの解説項目等	解説ページ
❶　俯瞰するあかり	
俯瞰するあかりを構成する要素	
〈道路・河川などの市街地の骨格〉	7-9
〈高層建物等〉	7-9
〈視点場の高さ〉	7-9
俯瞰するあかりを生み出す照明手法等	
①俯瞰されることを意識した工夫	7-10
②視点場をつくる	7-10
❷　水辺のあかり	
水辺のあかりを構成する要素	
〈水辺の建物等〉	7-11
〈水辺の樹木〉	7-12
〈敷地内の通路等〉	7-12
水辺のあかりの照明手法等	
①建物のあかりの工夫	7-12
②水辺の樹木のライトアップ	7-14
③敷地内のライトアップ	7-14
❸　界隈のあかり	
界隈のあかりを構成する要素	
〈沿道建物等〉	7-15
〈サイン・広告等〉	7-15
〈セミパブリックスペースの施設等〉	7-15
界隈のあかりの照明手法等	
①建物ファサードの演出	7-16
②メディアファサードによる演出	7-17
③カラーライティングによる演出	7-17
④店舗等からの漏れ光の演出	7-18
⑤サインや広告照明の演出	7-18
⑥歩行者用照明の演出	7-19
⑦植栽の演出	7-19
⑧ストリートファニチャー、モニュメントの演出	7-19
⑨照明の色温度による演出	7-20

❹ 個のあかり	
個のあかりを構成する要素	
〈ライトアップされたランドマーク〉	7-21
〈個のあかりを引き立てる周辺の環境〉	7-21
個のあかりの照明手法等	
① ランドマークの演出	7-21
② ランドマークを引き立てる演出	7-22
③ ランドマークをライトアップで活かす演出	7-22

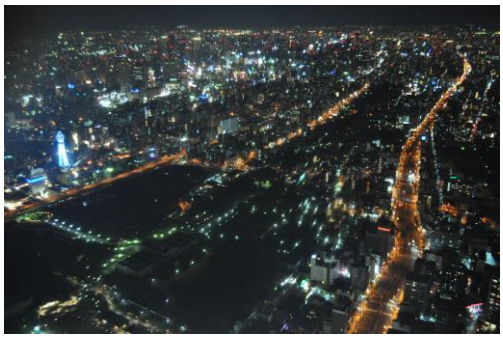
❶ 俯瞰するあかり

俯瞰するあかりを構成する要素

〈道路・河川などの市街地の骨格〉

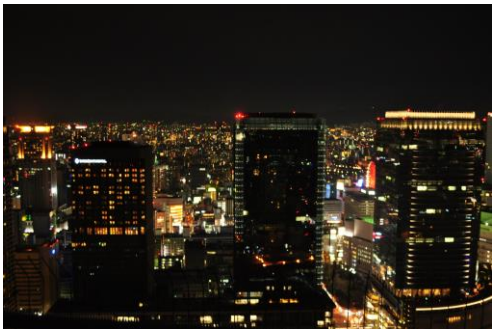
・市街地の骨格を形成する道路や河川などは、道路照明のあかりや水辺付近のあかりが線状にみえるなど、市街地の骨格が浮かび上がって見えてきます。

・また、市街地の中にある緑地や大きな水面などは、直接ひかりを発しないため、漆黒の面としてみえ、市街地のあかりとそのコントラストが特徴的に見えてきます。



〈高層建物等〉

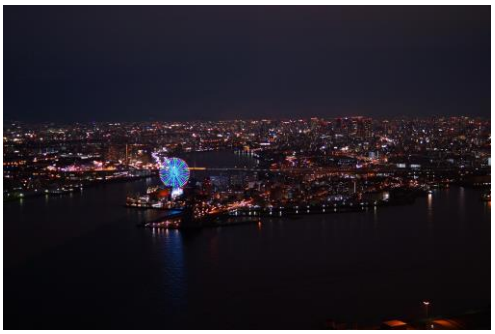
・高層建物は、建物のファサードなど、鉛直面のあかりが夜間景観の主要な要素として見えてきます。高層建物が林立する都心部などでは、高層建物のあかりが群として見えてきます。



〈視点場の高さ〉

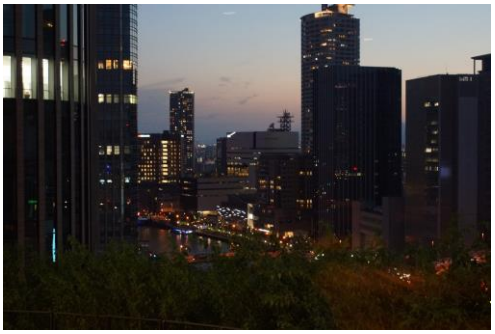
【視点場が高い場所にあるとき】

・展望台など視点場が、高い場所にある時は、遠方まで見下ろす形になり、大画面の上に地図を広げてみたように平面的なあかりが見えます。



【視点場が低い場所にあるとき】

・一方、視点場が中層階など、低い場所にある場合は、近接する建物等が間近に見えるため、それらの建物等が立体的に見えます。



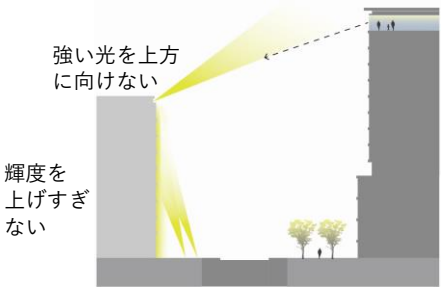
俯瞰するあかりを生み出す照明手法等

①俯瞰されることを意識した工夫

【強い光が直視されない配慮】

・視点場から俯瞰される付近の建物は、屋上部に強い光を発する照明や上方に向けた照明器具を配置しないようにしましょう。

・また、視点場のある建物の敷地に隣接する建物は、ファサードのライトアップなどの光は、輝度を上げすぎないようにしましょう。



【屋外広告物等の強い光が直視されない配慮】

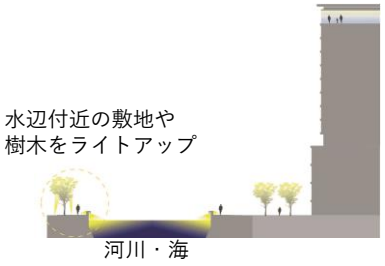
・視点場から俯瞰される付近の建物は、屋上広告物による照明や強い光を発する壁面広告を配置しないようにしましょう。

【周囲の照明器具を下方配光にする配慮】

・視点場から俯瞰される付近の敷地における駐車場や周辺外構は、照明器具の配光を路面に向け、上方に光が拡散しない照明器具を配置しましょう。

【水際を際立たせる配慮】

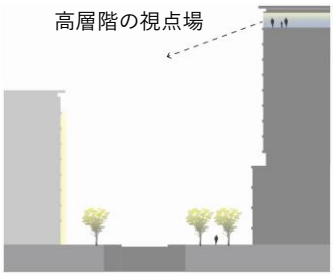
・俯瞰される河川や海辺の水際は、水辺付近の敷地や樹木等のライトアップにより、水際の光が連続的につながるように配置しましょう。



②視点場をつくる

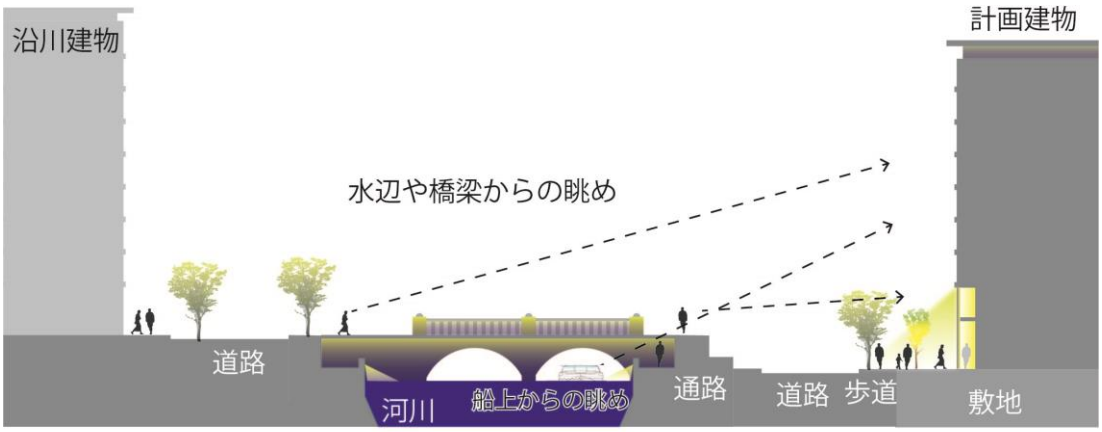
・河川、海辺、及び主要な幹線道路付近に高層建物を建てる場合は、水際や道路が良好に俯瞰できる建物の高層部付近に視点場を設けましょう。

・なお、視点場を設ける際は、可能な限り、パブリックアクセスとし、来訪者などが俯瞰できるようにしましょう。



② 水辺のあかり

水辺のあかりを構成する要素



〈水辺の建物等〉

【河川沿い】

・都心部の河川沿いの建物は、河川沿いの道路や通路、橋梁等比較的近い視点場から見られることになります。
・河川の水際や橋梁の上からは、視界を遮るものが少ないため、見通し景観が得られ、建物全体が視認できます。
・また、水上バス等の船上から見られるという点も特徴的です。
・都心部付近では、河川沿いに鉄道駅やオフィスビル等の施設が立地していることから、沿川付近の人通りは多く必然的に沿道建物は見られる機会が多い状況です。

【海辺】

・本市の海岸線は埋め立てにより形成された入り組んだ地形となっていることから、海辺の建物は、対岸の視点場から見られる状況です。視点場から対岸まで、比較的に遠く、海面を前景にして広がりのある眺めで、建物やまちなみ全体が水面に浮かび上がるように見えます。
・また、定期観光船のナイトクルーズでは、海上から海辺の建物や港湾施設周辺の夜景を見ることができます。

〈水辺の樹木〉

・水辺付近に植栽された樹木は、効果的にライトアップすると、水面にあかりが映り込みます。

※2

〈敷地内の通路等〉

・ライトアップされた水辺付近では敷地内の通路を水辺近くに繋げることで、水辺に近づきやすくなります。

水辺のあかりの照明手法等

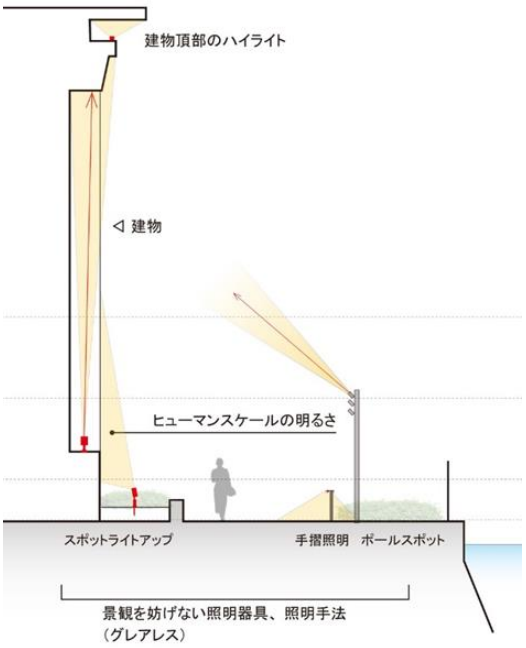
①建物のあかりの工夫

【水面に美しく映す】

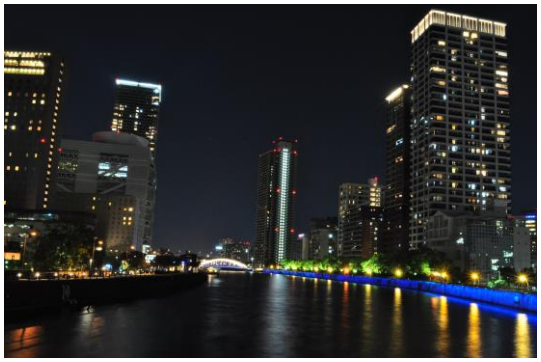
・建物のファサードのあかりを効果的に水面へ映すように、間接照明やアッパーライト等の照明器具により、ファサードをライトアップしましょう。

・照明等の光が歩行者等の目線に直接入らないように、照明器具の光を下方配光にしましょう。

・水辺の高層建物シルエットや意匠等を美しく見せるために、頭頂部をライトアップして水辺に映えるようにしましょう。



※2



【低層部のあかりによる賑わいづくり】

・建物低層部の店舗などでは、夜間の人通りに留意し、通りや通路に面してあかりが漏れるようにしましょう。

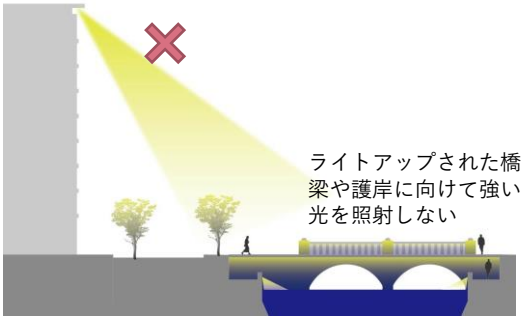
・低層部の漏れ出るひかりや低層部のファサードライトアップは、隣接する建物と連続するように照明器具を配置しましょう。

低層部のあかりを連続させて
通りのにぎわいをつなげる

【公共空間の水辺のあかりと調和する工夫】

・河川沿川に建物を建てる場合、ライトアップされた橋梁や護岸がないか確認し、それらがある場合は、良好にライトアップされた夜間景観を阻害しないように、付近に強い光を発する照明を配置したり、それらに向けて光を照射しないようにしましょう。

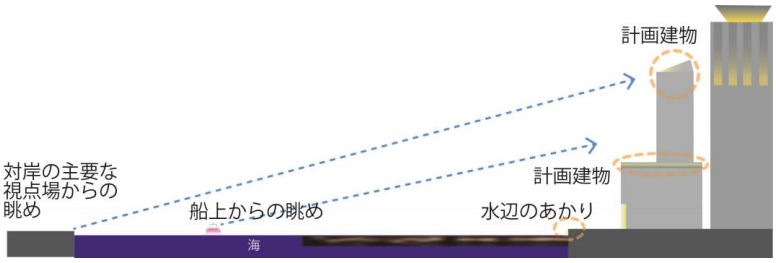
※3

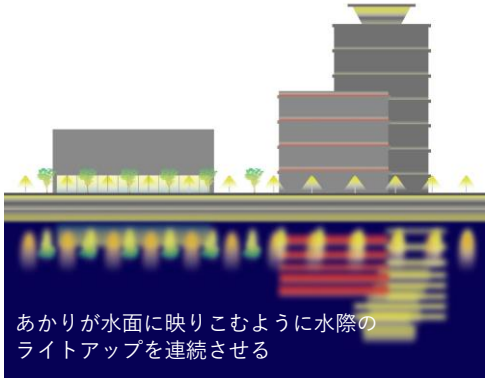


【海辺のあかりの工夫】

・対岸の視点場など、遠景から眺めることを意識して、建物の頭頂部や外観の全体的なライトアップを行いましょう。

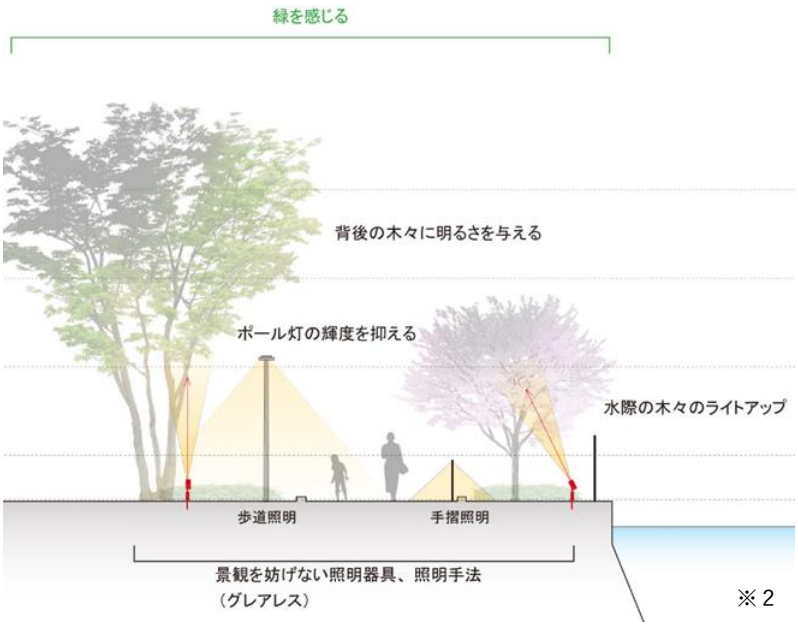
・敷地が水辺付近に面する場合は、水際線が連続的なあかりでつながって見えるように、護岸の手すり、列植された樹木等のライトアップのほか、照明ポール（歩行者用照明等）を連続配置するなど、水際のあかりが線的に繋がって見えるようにしましょう。





②水辺の樹木のライトアップ

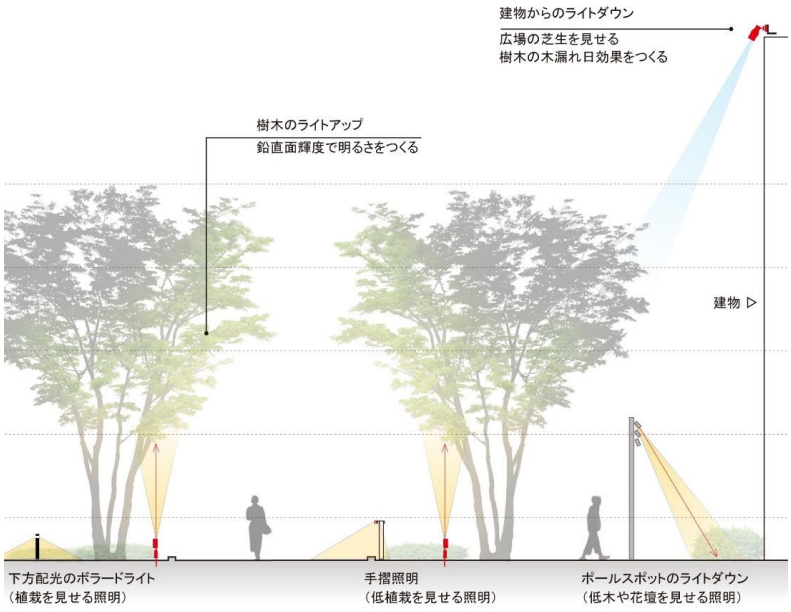
・水辺付近に植栽を行う場合は、樹木の正面を水辺に向けるようにし、水辺に面する樹木を連続的にライトアップしましょう。
・また、水辺の樹木の背後に高木植栽がある場合は、その樹木にライトアップを行い、木々のあかりが重層的に見えるようにしましょう。
・樹木に沿って歩行者用照明等を配置する場合は、樹木に当るあかりを妨げないように、照明器具の輝度を抑えるとともに、歩行者の目線に直接入らないように、照明器具の光を下方配光にしましょう。



※2

③敷地内のライトアップ

・敷地内の通路沿道の樹木などの植栽は、高木や低木類の適切なライトアップにより、美しくライトアップされた水辺の空間へひとを誘導しましょう。
・歩行者動線付近に設けたベンチなどストリートファニチャー等を効果的に照らして、通路の連続性や賑わい等を演出しましょう。
（ストリートファニチャー等のライトアップは、❸界隈のあかり⑧ストリートファニチャー、モニュメントの演出を参照）

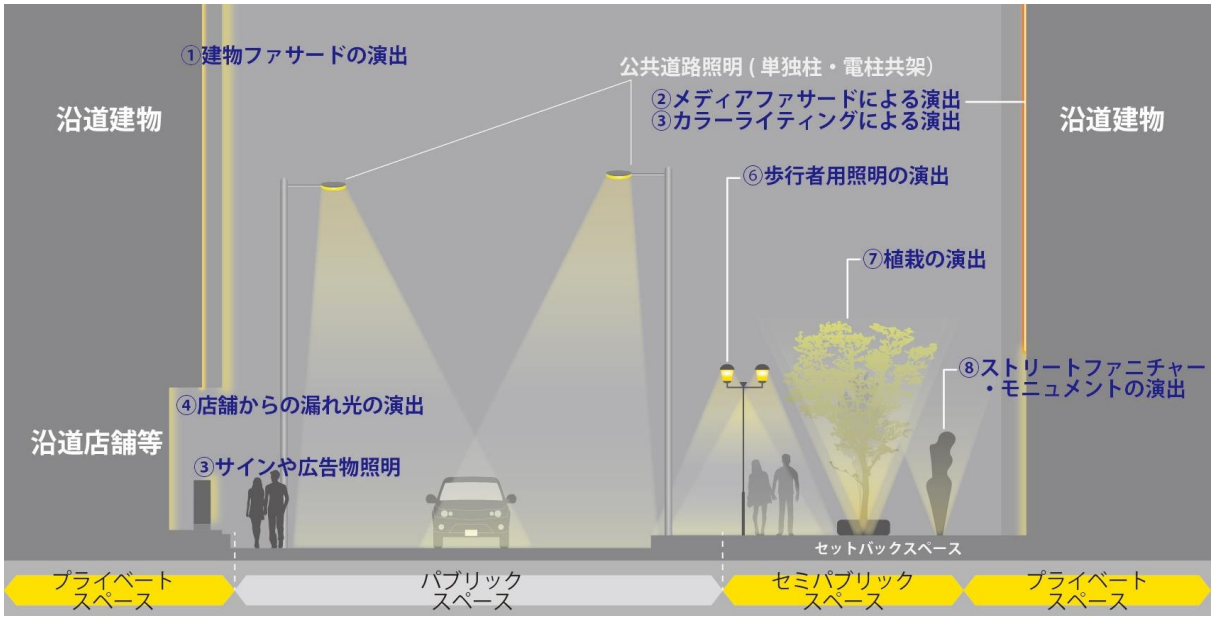


※2

植栽のライトアップによって、誘導性を増した事例　※2

❸ 界隈のあかり

界隈のあかりを構成する要素



界隈のあかりは、幹線道路や区画を構成する細街路などのパブリックスペースのあかり、そして、民有地のセミパブリックスペース及びプライベートスペースのあかりで構成されるものです。

〈沿道建物等〉

・沿道建物の外壁面に当たるあかりや外壁面から発するあかりは、地表から鉛直面の光として見えてきます。また、道路に面して開口部がある場合は、室内からの漏れ光として同時に見えてきます。

・通りから見えるこれらのあかりは、夜間の通りに安心感を与えるとともに、界隈の賑わいを感じさせるあかりです。

〈サイン・広告等〉

・サインや広告物は、建物に付帯されたり、セミパブリックスペースに設けられます。その機能から文字や記号等が判読でき、分かりやすくすることが重要ですが、夜間においては、適切な照明などにより、その機能が保たれています。過度な光の照射や発光は、夜間のまちなみでは光害になることがあります。

〈セミパブリックスペースの施設等〉

【歩行者用照明】

・歩行者用照明は、歩行者動線や広場等の地表面を照らすもので、歩行者の安全と快適な通行を確保するものです。ガス灯などは、路面を照らす機能とともに、光源を見せるという演出効果もあります。

【植栽等】

・敷地内に植栽された樹木は、効果的にライトアップすると樹形等が照らし出され、周囲や通路から緑のあかりが見えます。

【ストリートファニチャー、モニュメント】

・ベンチなどの休憩施設は歩行者動線近くや広場などに置かれますが、ライトアップにより、夜間においても休憩施設として視認性が向上するとともに、付近を通行する歩行者の安全性向上にもつながります。

界隈のあかりの照明手法等

①建物ファサードの演出

【通りから眺めるあかりを美しく見せる】

・通りから眺める光の景色を創り出すライトアップなど、下方から建物壁面を照らす（間接照明）等、建物の外観意匠による凹凸の印影を美しく見せるように照明器具を配置しましょう。

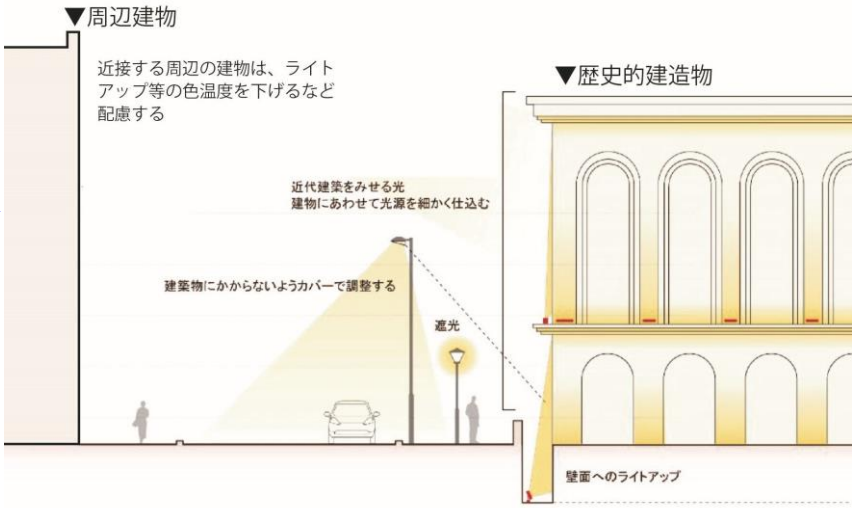
・照明の色温度は、まちなみのあかりに統一感を持たせるために、3000K 以下としましょう。

【地域の特性に応じたあかりの演出】

・歴史的建造物が隣接する場合は、照明の色温度を下げるなど、象徴性に配慮するようにしましょう。

・歴史的建造物以外のまちなみも低い色温度で統一する（例えば、2500K～2700K の電球色）ことで、均整のとれた夜景演出が可能となります。

※2



※2

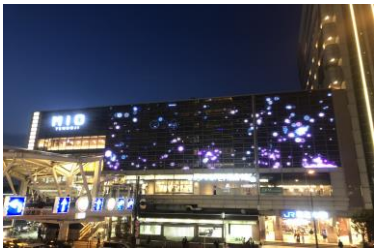
知恩寺（宮津市）の門前町界隈のあかり
色温度の低い電球色のあかりでまとめられ、情緒ある夜景演出の例
※3

②メディアファサードによる演出

・メディアファサードは、商業施設等や通りの賑わいを創り出すような空間や場所に用いるようにし、周囲の夜間景観を阻害しないように配慮しましょう。

・メディアファサードとして、建物外壁面に、映像や動きのある光を用いる場合は、周辺の視点場からの見え方を検討し、眩しすぎない光や緩やかな表示速度とするなど、にぎわいの形成やまちの魅力につながるデザイン性の高いものとしましょう。

夜間景観に配慮した事例



天王寺ミオ　左：昼景、右：夜景

piole(ピオレ)姫路 左上：昼景、右上・下：夜景

③カラーライティングによる演出

・カラーライティングは、建物のファサードの美しさや魅力を高めるものとして、賑わいを創り出すような空間や場所に用いるようにし、周囲の夜間景観を阻害しないように配慮しましょう。

・動きのある光を用いる場合は、まちなみに配慮した色彩を用いるとともに、緩やかな色彩変化速度とするなど、不快感を与えないデザイン性の高いものとしましょう。

神戸市博物館　※3

中央堤中央ターミナル・かもめりあ（神戸市）※3

④店舗等からの漏れ光の演出

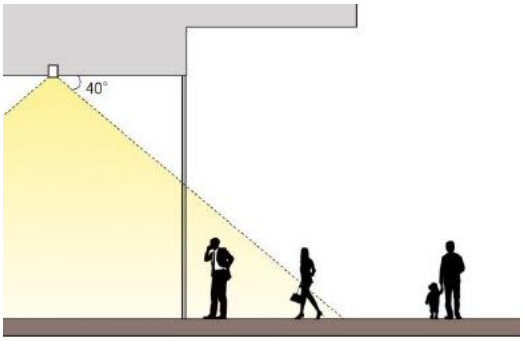
【通りに面したあかりの演出】

・通りに近接して室内に設ける照明は、歩行者の目線に直接光源が入らないように、下方配光角度等に配慮したグレアカットの照明器具を用いるなど、設置位置や照明の向きに配慮しましょう。

・通りに面する一階開口部にシャッター等を設ける場合は、透過性のあるものにしましょう。

※2

※2



店舗のベース照明の漏れ

ウインドウ用の特別なあかりが無くても、店舗内のあかりの漏れ光が充分な景観効果を発揮します。
グレアカット効果のある器具の使用をお勧めします。

※2

【公園や広場などに面したあかりの演出】

・公園や広場等に建物等が面する場合は、開口部や出入り口を設けて、その周辺をライトアップするなど、周辺の安全・安心に寄与するよう、室内からのあかりが外部に漏れるようにしましょう。

・公園や広場等に面する照明器具は、歩行者の目線に直接光源が入らないように、下方配光角度等に配慮したグレアカットの照明器具を用いるなど、設置位置や照明の向きに配慮しましょう。

広場に面して開口部を設け、透過するあかりで前面を照らす例

パブリックスペースに面してオープンテラスを配置して、施設からの漏れ光や照明で屋外を照らす例

⑤サインや広告照明の演出

・サインや広告物の照明は、内照式の照明はできるだけ避け、切り文字型（箱文字）型のバックライト文字や文字のみの発光とするなど、上質な印象の照明としましょう。

・色彩にも配慮し、高彩度の色彩を大面積で用いないようにし、周辺の夜間景観を阻害しないように努めましょう。

切り文字のバックライトを採用したサイン。上質なデザインを感じさせる例
※2

切り文字を投射している事例電球色で統一していることで高級感を演出している例　※2

⑥歩行者用照明の演出

・照明器具の光源は、周囲のまちなみのあかりとの統一感を持たせるために、光源の色温度 3000K 以下にしましょう。

・照明器具は下方配光型のグレアの少ない器具を選択し、歩行者動線に沿って適切に配置しましょう。

歩行者動線の路面を照らす歩行者用照明例　※３

×：周囲に光が拡散して不快な光が見える例
○：下方配光型にして不快な光を抑えた例　※２

⑦植栽の演出

・高木植栽は人の動線や樹木の正面性に配慮し、アッパーライトによる投射とし、樹木の樹形が美しく感じられるようにしましょう。

・低木は低ポール灯による投射もしくは植栽内に光源を設置し、歩行者の目線に光源の光が直接入らないように留意しましょう。

アッパーライトとダウンライトを併用している例　※２

建物ファサード付近のライトアップした植栽例　※３

⑧ストリートファニチャー、モニュメントの演出

ストリートファニチャー演出

・人が触れるベンチ等のファニチャーについては、利用者や付近を通行する人の目線に直接光が入らないように、ベンチ下部の間接光での配光や低い場所での配光を行いましょう。

モニュメント演出

・一定規模の大きさを持つモニュメントなどは、そのシンボル性や存在感、歩行の楽しみや賑わいを感じさせるため、下方からのアッパーライトにより投光を行いましょう。

ベンチ下部の光が落ち着きのある空間を形成している例
※２

ベンチ側面近くの低い位置からライトアップしている例
※３

下方から投射されたモニュメント。シンボル性を感じさせるとともに、その存在感が向上している例※２

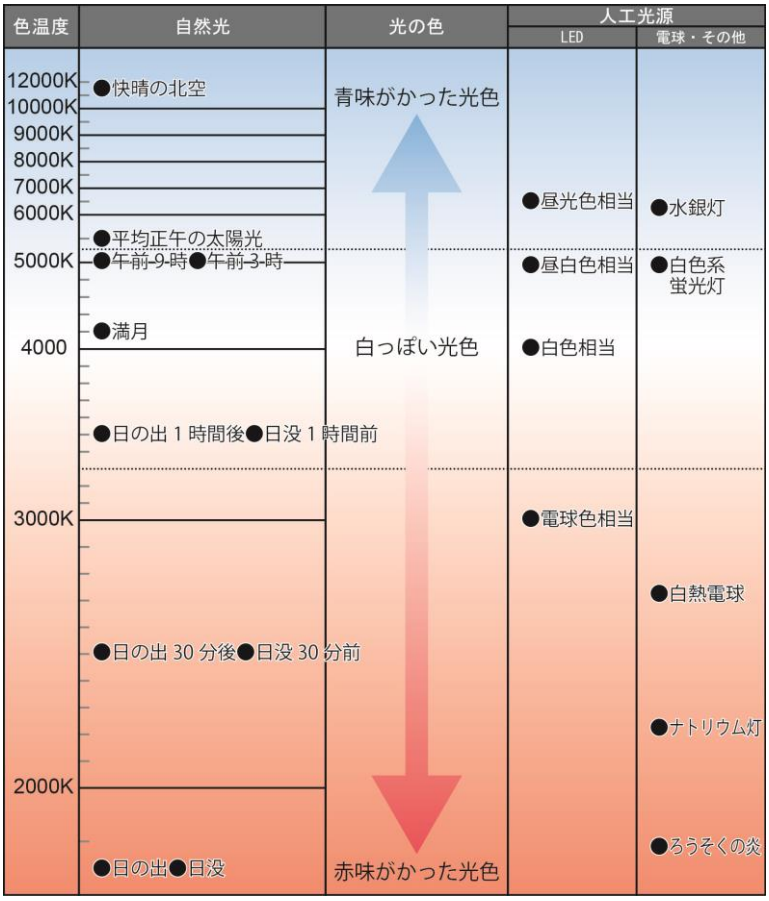
⑨照明の色温度による演出

・建物ファサードや樹木のライトアップ、敷地内のライトアップに用いる照明器具の色温度は、3000K 以下に統一することで、まとまりの感じられる光の演出が可能となります。

・また、シンボリックな建物等をライトアップする際は、周囲の色温度を下げるなど、色温度等の調整等により、その象徴性を演出することができます。

・LED 照明は、一般照明と比較して、長寿命、省電力化を実現できます。CO2 削減にも有効な照明です。

色温度の図



❹ 個のあかり

個のあかりを構成する要素

〈ライトアップされたランドマーク〉

・大阪には近代建築をはじめとした伝統的な建物や水辺空間の橋梁等の建造物といったランドマークが存在します。
・これら「個」の資源をライトアップする取組は、大阪の夜間景観の形成上、重要なあかりです。

※3

〈個のあかりを引き立てる周辺の環境〉

・まちなかに点在するランドマークとなる建物等の「個」のあかりは、近接する建物や緑といった周囲の環境と一体的に捉えられます。

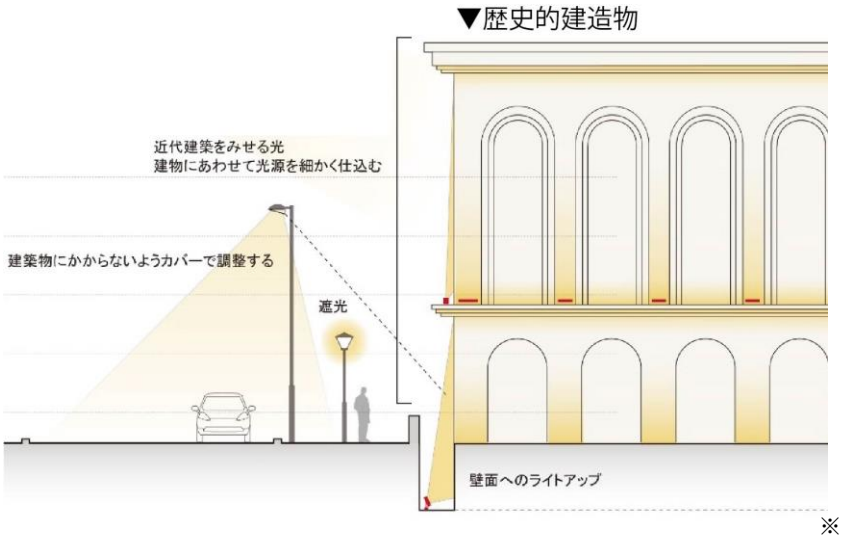
※3

個のあかりの照明手法等

①ランドマークの演出

・建物の外観意匠の凹凸感等を細かくライトアップすることで、その象徴性を高めることが可能です。小型の LED 光源等を建物意匠の凹凸にあわせて細かく仕込むことで、美しい外観の光と影を浮かび上がらせることができます。
・また、周囲の光源がライトアップする建物に直接建物に当らないように、遮光しましょう。

※3



※2

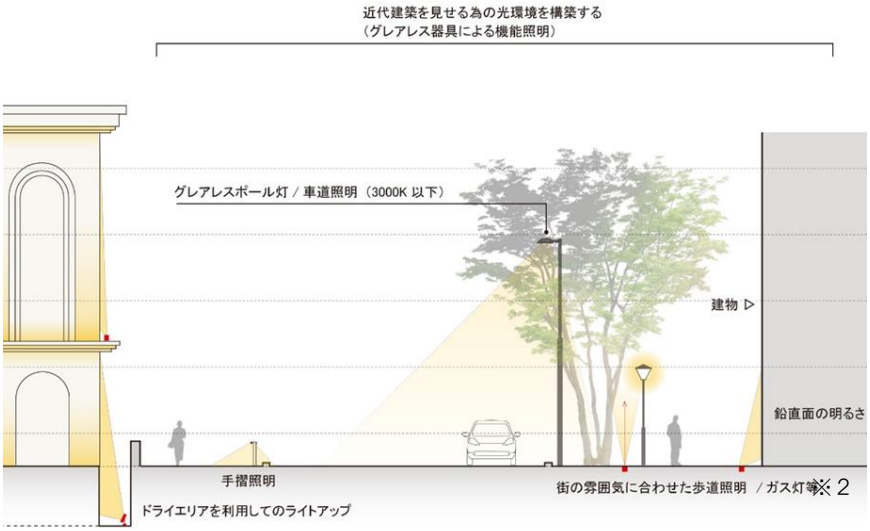
・河川や海の水辺空間では、橋梁や護岸等のライトアップにより、良好な夜間景観が形成されています。

・護岸や橋梁等の機能的な形態を活かしたライトアップにより、夜間景観の中のポイント要素として演出しましょう。

②ランドマークを引き立てる演出

・周囲の建物や樹木を適切にライトアップすることで、ランドマークを象徴的に見せることができます。

・例えば、ランドマークのあかりを引き立てるように、前景の樹木をライトアップするものと、しない樹木を配置するなど、主役を引き立てるようにしましょう。



※2

背景のランドマークをよりよく見せるように、左側の樹木はライトアップ行わず、右側の樹木をライトアップしている例　※3

③ランドマークをライトアップで活かす演出

・祭事やイベント等の時期に合わせて、シンボリックにカラーライティングすることで、まちの発信性や PR 効果を高めることができます。

※3

※3

市域全域の夜間景観形成基準

夜間景観形成基準	基準に係わる照明手法等の関連頁
照明演出を行う場合は、建物のファサードの美しさや魅力を高めるものとし、周辺のまちなみの風景の一部となることを考慮して表現内容や表現方法を工夫する。また、周辺環境に配慮した輝度とする。	❸界隈のあかりの照明手法等 ①建物ファサードの演出 【通りから眺めるあかりを美しく見せる】7-16 【地域の特性に応じたあかりの演出】7-16 ※ランドマークとなる建築や工作物の場合 ❹個のあかりの照明手法等 ①ランドマークの演出 7-21 ②ランドマークを引き立てる演出 7-22
光のまちづくり推進委員会での取り組みを踏まえ、護岸や橋梁等の良好なライトアップに努める。	❷水辺のあかりの照明手法等 ①建物のあかりの工夫 【公共空間の水辺のあかりと調和する工夫】7-13 ❹個のあかりの照明手法等 ①ランドマークの演出 7-21
周辺に近代建築物など歴史的な景観資源やエリアを象徴する建築物等がある場合は、それと調和するよう配光や色温度に配慮する。	❸界隈のあかりの照明手法等 ①建物ファサードの演出 【地域の特性に応じたあかりの演出】7-16 ❹個のあかりの照明手法等 ①ランドマークを引き立てる演出 7-22
夜間照明を主たる道路に面して行う場合は、周辺景観やエリアのイメージと調和するよう夜間景観の形成に努める。 夜間照明を当該街路に面して行う場合は、周辺景観やエリアのイメージと調和するよう夜間景観の形成に努める。	❸界隈のあかりの照明手法等 ①建物ファサードの演出 【通りから眺めるあかりを美しく見せる】7-16 【地域の特性に応じたあかりの演出】7-16 ⑥歩行者用照明の演出 7-19 ⑦植栽の演出 7-19 ⑧ストリートファニチャー、モニュメントの演出 7-19
公園や広場などのパブリックスペースに隣接する敷地では、夜間照明は周辺の安全・安心に寄与するよう努める。	❸界隈のあかりの照明手法等 ④店舗からの漏れ光の演出 【公園や広場などに面したあかりの演出】7-18
景観上主要な道路からの眺めに配慮し、効果的な建物へのライトアップにより周辺の歴史的景観資源への視線や動線を誘導する工夫を行うなど、夜間景観の演出に努める。	❸界隈のあかりの照明手法等 ①建物ファサードの演出 【通りから眺めるあかりを美しく見せる】7-16 【地域の特性に応じたあかりの演出】7-16
〈屋外広告物意匠等〉照明を施す場合は、周辺環境に配慮した輝度とするほか、景観上主要な道路からの見え方に留意し、目立たないような工夫に努める。 〈屋上広告物〉照明を施す場合は、内照式は避け、できる限り外照式とするよう努める。ただし、文字のみの場合は可とする。	❸界隈のあかりの照明手法等 ⑤サインや広告照明の演出 7-18

（３）大阪を代表する「４つのエリア」の特性を生かす照明手法等

１）大阪城公園周辺

①　エリアの夜間景観の特性

昼間と夜間の景観の特性

〈昼間の景観　主要な視点場からみる、昼間の大阪城天守閣への眺め〉

・代表的な視点場からの大阪城天守閣への眺めは、大阪城公園の樹木の緑が前景となり、大阪城天守閣は、それらの緑の上に浮かぶように眺望できます。

〈夜間の景観　主要な視点場からみる、ライトアップされた大阪城天守閣〉

・夜間における大阪城天守閣への眺めは、背景の夜間の空と同様に前景の緑も暗くなるため、ライトアップされた大阪城天守閣は、白く浮かび上がるように眺望されます。
このように象徴的にライトアップされた大阪城天守閣への眺めを妨げないよう、前景や背景に見える建物や緑の適切な夜間景観の形成が必要です。

②　エリアの魅力を高める照明手法

来訪者を迎える雰囲気づくり、活気やにぎわいと秩序との共存など、ランドマークを活かした夜間景観の創出に努める

ランドマークである大阪城天守閣を際立たせる配慮と併せて、大阪城天守閣へのアクセルルートとなるエリアでのライトアップにより、来訪者を迎える雰囲気づくりを行い、エリアとしての夜間景観の魅力を創出しましょう。

・歩行者など人の身近な場所にある樹木などは、適切にライトアップすることで、季節感等の演出が可能です。

建物からの漏れ光などで周囲の植栽地を柔らかく照らす例

動線付近の樹木のライトアップの例　※３

象徴的に動線を照らした例

ベンチの足元を照らすライトアップの例

・あかりを連続的に配置して、ランドマークへの視線誘導や、動線などを強調することができます。

植栽の連続的なライトアップによって、誘導性を増した事例　※2

鉛直方向のあかりを連続的に配置して象徴性を演出した例　※3

③　夜間景観形成基準に関わる照明手法等

照明演出を行う場合は、建物のファサードの美しさや魅力を高めるものとし、周辺のまちなみの風景の一部となることを考慮して表現内容や表現方法を工夫する。また、周辺環境に配慮した輝度とする。

主要な視点場からの眺めに配慮し、大阪城天守閣と調和した配光や色温度により、大阪城天守閣を際立たせる夜間景観の形成に努める。

・大阪城のライトアップのあかりは、白っぽく色温度が高いため、大阪城の天守閣の周囲に見える建物のファサードのあかりや前景に見えるあかりは、3000K（ケルビン）以下の色温度とし、大阪城のライトアップを際立たせるように配慮しましょう。

【関係する解説7-20：⑨照明の色温度による演出】

※1

・主要な視点場からの眺めに配慮するため、大阪城天守閣の前景や背景に、建物や工作物などによる、強い光が見えないように配慮しましょう。

主要な視点場から眺める大阪城天守閣のライトアップのあかり

・色温度に係わる解説
色温度は、太陽光や自然光、人工的な照明などの光源が発する光の色を表すための尺度で、単位はケルビン（K）です。白っぽい光の色ほど、色温度は高くなり、赤みを帯びた色ほど低くなります。

【関係する解説 7-20：⑨照明の色温度による演出】

電球色（3000K以下）によるライトアップの例

主要な視点場からの眺めに配慮し、効果的な建物へのライトアップにより大阪城天守閣への視線や動線を誘導する工夫を行うなど、夜間景観の演出に努める。

・連続的なあかりの配置や、方向性を演出するライトアップ等により、ランドマークへの視線を誘導しましょう。

※3

あかりの連続配置やライトアップの高さを揃えることで、視線誘導している例

主要な視点場からの眺めに配慮し、屋上の広告物やサインについて照明を施す場合は、内照式は避け、できる限り外照式とするよう努める。ただし、文字のみの場合は可とする。

主要な視点場から大阪城天守閣への眺望範囲に、広告物やサインを設置し照明を施す場合は、周辺環境に配慮した輝度とするほか、視点場からの見え方に留意し、目立たないような工夫に努める。

・大阪城天守閣への眺望範囲に見える屋外広告物の照明は、グレアを抑えるなど、際立たせない外照照明としましょう。また、切り文字を用いた間接照明も効果的です。

シンプルな切り文字の間接照明で広告を演出した例

建物高層部の広告物照明は、大阪城天守閣への眺望を妨げないように配慮しましょう

２）中之島等

①　エリアの夜間景観の特性

昼間と夜間の景観の特性

〈昼間の景観　主要な視点場からみる、水辺のまちなみ〉

・対岸や橋等の主要な視点場から水辺越しにみる沿川の建物群が水都大阪を印象づける景観を形成しています。また、水際や建物沿いに歩行者動線があるなど、人の身近な場所に水辺景観が面しています。

〈夜間の景観　水面に映る水辺のまちなみ〉

・水辺越しに見られる沿川の建物の光や水際の光が、水辺に映し出されるのが特徴的な夜景です。夜間においても人の動きや界隈性の感じるまちの光が見えてきます。水辺に面して見える建物や水辺の緑など、夜間景観の形成が必要です。

②　エリアの魅力を高める照明手法

魅力的な水辺のあかりをつなげる演出～水辺の印象的な顔づくり～

中之島においては、これまでの橋梁や護岸といった公共施設や近代建築のライトアップの取組により、魅力的な夜間景観が形成されています。また、船上からの視点場は、中之島の夜間景観の魅力を語る上で、特徴的です。

「水辺、歩行者空間、建物」をつなげる、「建物と建物」をつなげる、そして、これまでの取組を将来につなげ、より一層、魅力的な水辺のあかりを創出しましょう。

◆ 水辺の界隈性を創り出す夜間照明の工夫例

低層部のあかりや樹木のライトアップにより親近感を感じさせている例

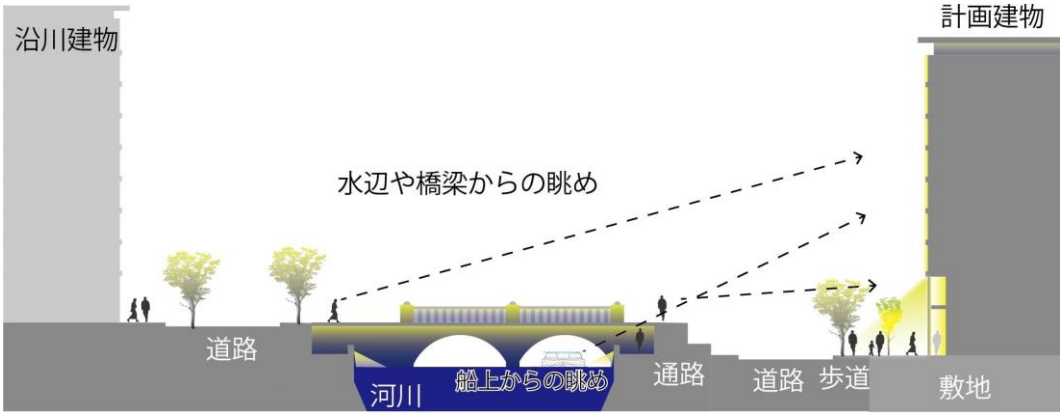
建物ファサードのカラーライティングや室内のあかりを見せて賑わいを感じさせている例　※３

③　夜間景観形成基準に関わる照明手法等

照明演出を行う場合は、建物のファサードの美しさや魅力を高めるものとし、周辺のまちなみの風景の一部となることを考慮して表現内容や表現方法を工夫する。また、周辺環境に配慮した輝度とする。

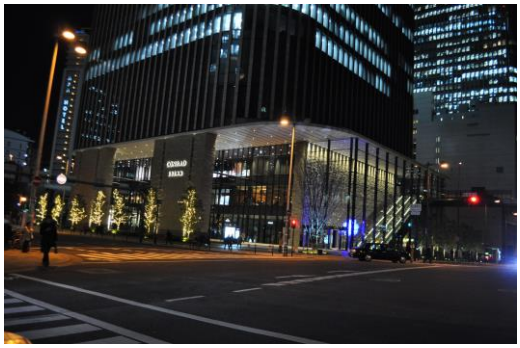
主要な視点場からの眺めに配慮し、大川、堂島川、土佐堀川及び安治川に面する建築物は、水面への映りこみに配慮した照明などにより、都市の魅力を高める水辺の夜間景観の形成に努める。

・中之島等エリア周辺には、多くの歴史的建造物や高層建物等が建ち並ぶ特徴的なエリアであるとともに、都心の水辺であることから、多くの人の往来が水辺付近にはあります。こうしたエリアに建物等を建てる場合は、沿川や沿道の利用者に対して配慮するとともに、水辺の美しさが伝わるように外観ファサードや歩道等に面する部分への照明演出を行いましょう。
【関係する解説 7-12：①建物のあかりの工夫】



・低層部の開口部や漏れ光のあかりを見せることで、歩行者等が身近に感じるあかりの演出を行いましょう。

低層部のあかりを道路に向けて親近感を感じられるものとする例


間接光や漏れ光でパブリックな空間を照らす例

・河川などの水辺に面して建物等を建てる場合は、水辺にあかりが映り込むように低層部のファサードのライトアップに配慮しましょう。
・ライトアップに際しては、間接照明を心掛け直接あかりが見えないように配慮しましょう。

低層部のファサードをライトアップする例

象徴的意匠をライトアップして水辺に映す例

低層部の店舗等のあかりで、水辺を照らす例

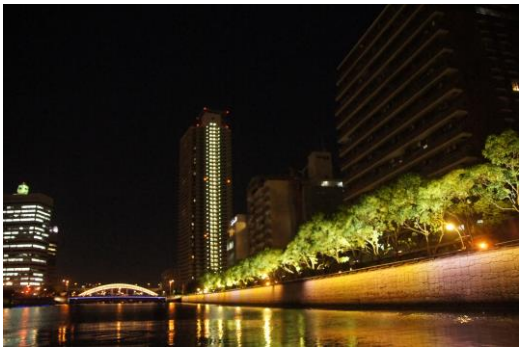
・低層部のライトアップやもれ光をつなげていくことで、水辺や通りの賑わいを演出しましょう。
【関係する解説 7-13：①建物のあかりの工夫】

低層部のファサードのライトアップを連続させた例　※３

ファサードのライティングや低層部のもれ光で通りの賑わいを演出する例

低層部の間接照明を利用して通路をつなげる例

・護岸や水辺を線的に照らすようにライトアップすることで、水辺の映り込みを強調することができます。
【関係する解説 7-13：①建物のあかりの工夫】



護岸や樹木のライトアップによる水辺のライトアップの例　※３

水辺の雁木をライトアップして、水際の空間を演出している例　※３

大川、堂島川、土佐堀川及び安治川に面する建築物の部分について、主要な視点場からの景観資源への眺望範囲に広告物やサインを設置し照明を施す場合は、周辺環境に配慮した輝度とするほか、視点場からの見え方に留意し、目立たないような工夫に努める。

主要な視点場からの眺めに配慮し、大川、堂島川、土佐堀川及び安治川に面する建築物の屋上の広告物やサインについて、照明を施す場合は、内照式は避け、できる限り外照式とするよう努める。ただし、文字のみの場合は可とする。

・主要な視点場から見える屋外広告物の照明は、グレアを抑えるなど、際立たせない外照照明としましょう。また、切り文字を用いた間接照明も効果的です。

シンプルな切り文字の間接照明で広告を演出した例

３）ベイエリア

①　エリアの夜間景観の特性

昼間と夜間の景観の特性

〈昼間の景観　主要な視点場からみる、港や海辺のまちなみへの眺め〉

・主要な視点場から見る眺め対岸の眺めは、遠景のまちなみとして、建物等のスカイラインや六甲山系の山並みなどが見えるなど、海辺のパノラマ景として眺望できます。

〈夜間の景観　海に浮かぶように見える海辺のまちなみ〉

・夜間における対岸のまちなみへの眺めは、光に照らされた高層建物や港湾施設等が海面に浮かび上がるように見えます。また、海面にはまちなみの光が投影されて見えてきます。このように、水辺と接するように見える海辺の夜間景観をよりよく見せるための夜景形成が必要です。

②　エリアの魅力を高める照明手法

港らしい夜景を創り出すあかりの演出

埋め立てによる入り組んだ地形が特徴的な大阪市の港では、水面を挟んで対岸の夜景を望める視点場が存在することが特徴的です。

今後、大阪の魅力を世界に発信する絶好の機会を有したベイエリアでは、ますます港らしい大規模な建物をはじめ、水際の通路、緑地帯や港湾施設（ガントリークレーン等）のライトアップにより、港らしい夜景を創り出すことが望ましいと言えます。

◆港らしい夜景を創り出す夜間照明の工夫例

水辺の建物や歩行者空間のライトアップ例　※３

水辺の建物の象徴的なライトアップ例※３

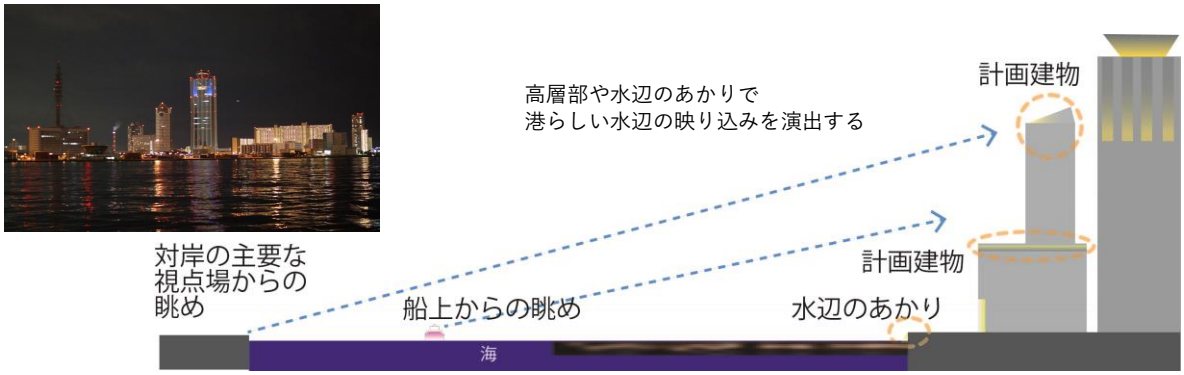
③　夜間景観形成基準に関わる照明手法等

照明演出を行う場合は、建物のファサードの美しさや魅力を高めるものとし、周辺のまちなみの風景の一部となることを考慮して表現内容や表現方法を工夫する。また、周辺環境に配慮した輝度とする。

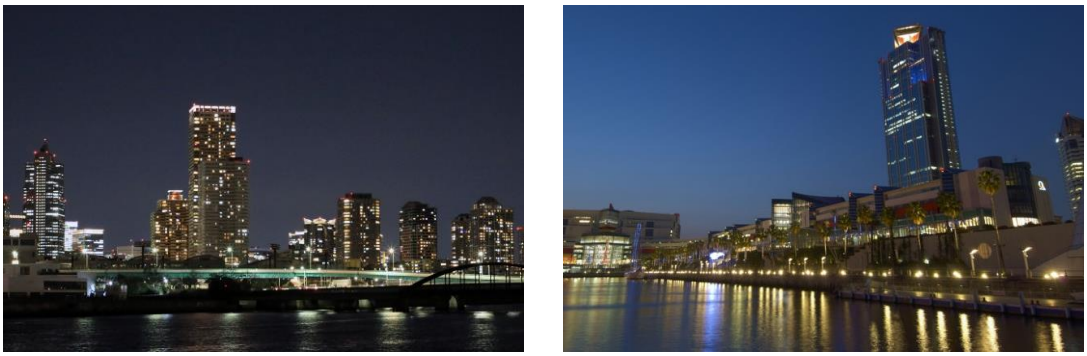
主要な視点場からの眺めに配慮し、ランドマークとなる大規模建築物などの良質なライティング、水面への映りこみに配慮した照明などにより、港に映える夜間景観の形成に努める。

・ベイエリアの海辺に面して建物等を建てる場合は、対岸等主要な視点場からの眺めに配慮し、建物自身の存在感を演出する高層部の照明演出や水際をライトアップすることで、水面への映り込みに配慮しましょう。

【関係する解説 7-13：①建物のあかりの工夫】

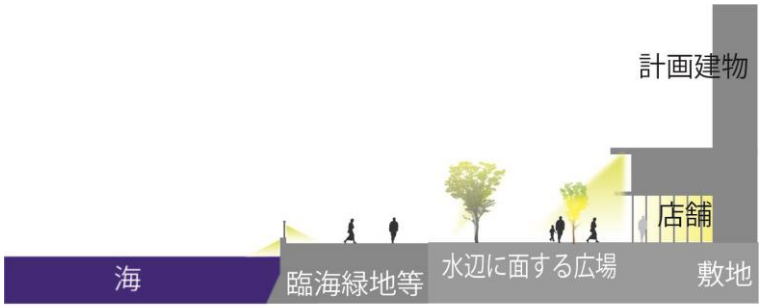


・ランドマークとなる高層建物などは、建物のシルエットや意匠等を美しくみせるために、高層部や頭頂部をライティングするなど、港に映えるライトアップをしましょう。

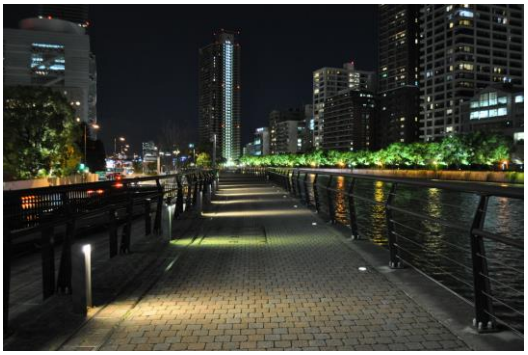


頭頂部のライトアップにより、建物の存在感を高める例　※1

・ベイエリアでは、海辺に面して臨港緑地等や水辺のパブリックスペースがあります。こうしたスペースに対して敷地や建物が面する場合は、水辺に近づけるように開口部や店舗等施設、広場等を配置するなど、水辺の付近の夜間形成に配慮しましょう。



水際に面して設けられた広場や店舗。
店舗のあかりや広場のライトアップによりにぎわいを創り出している例



水辺の通路に沿って設けられたライティングの例

写真及び図の提供
※１：©（公財）大阪観光局
※２：光のまちづくり推進委員会
※３：大阪大学大学院非常勤講師 長町志穂

４）御堂筋とその沿道

①　エリアの夜間景観の特性

昼間と夜間の景観の特性

〈昼間の景観　御堂筋からの見通す眺め〉

・イチョウ並木が列植された高規格な直線道路と、比較的まとまった敷地規模に建つ、壁面や高さ 50m の軒線が揃った質の高い沿道建築群により、大阪のメインストリートとして、我が国でも類のない風格のある、シンボル的な見通し景観を眺望できます。

〈夜間の景観　沿道建築物のライトアップや漏れ光による上質で個性豊かなにぎわい〉

・御堂筋の沿道には近代建築など大阪の上質な歴史文化を代表する資源が点在し、イチョウ並木とも調和した照明による演出で夜間景観に深みを与えています。また、沿道では、低層部の店舗等の漏れ光や壁面のライトアップ等により区間ごとの特性に応じた特徴の異なる夜間景観が形成されています。特に、土佐堀通から中央大通においては、高さ 50m 軒線を際立たせる照明の工夫により連続した夜間景観の形成が期待されています。

②　エリアの魅力を高める照明手法

道路・歩行者空間・建物が一体となったあかりによるビスタ景の演出

沿道敷地において、近代建築のライトアップや個々の風格ある建物の照明演出により魅力的な夜間景観を演出するとともに、御堂筋のイチョウ並木や歩行者空間と沿道敷地の低層部のにぎわいや壁面が一体となり、かつそれらを線的につなげることにより、シンボリックなあかりによるビスタを創出しましょう。

◆　御堂筋の風格と低層部のにぎわいを創り出す照明の工夫例

長堀通以南の繁華街らしい華やかな夜間景観

土佐堀通～中央大通の落ち着いた夜間景観

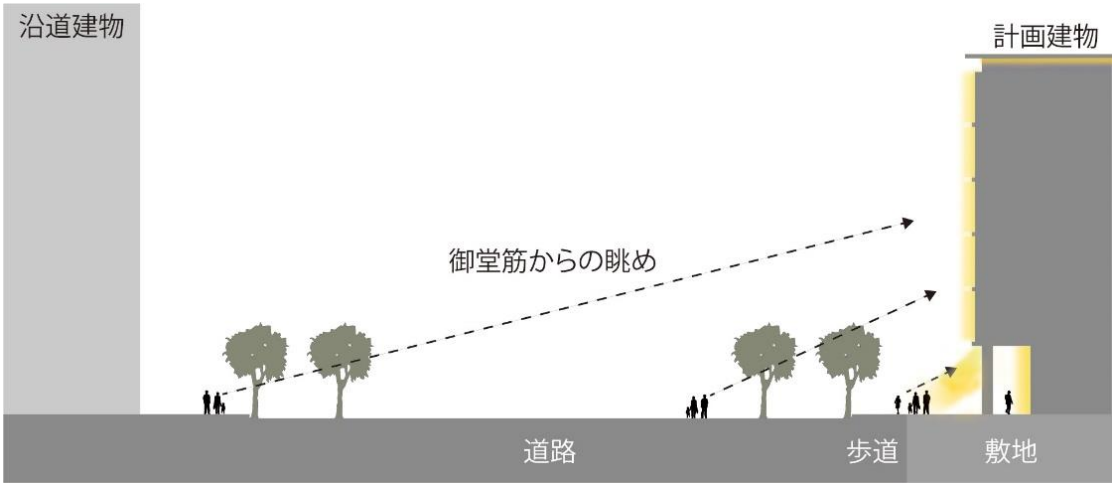
③　夜間景観形成基準に関わる照明手法等

照明演出を行う場合は、建物のファサードの美しさや魅力を高めるものとし、周辺のまちなみの風景の一部となることを考慮して表現内容や表現方法を工夫する。また、周辺環境に配慮した輝度とする。

周辺に近代建築物など歴史的な景観資源やエリアを象徴する建築物等がある場合は、それと調和するよう配光や色温度に配慮する。

景観上主要な道路からの眺めに配慮し、効果的な建物へのライトアップにより周辺の歴史的景観資源への視線や動線を誘導する工夫を行うなど、夜間景観の演出に努める。

・御堂筋沿道は、多くの歴史的建造物や高層建物等が建ち並ぶ特徴的なエリアであるとともに、夜間においても多くの人の往来があります。建物内の人の活動が感じられるよう漏れ光の演出や外壁照明を計画し、それをつなげていくことで、にぎわいある沿道の夜間景観を創出しましょう。また、水辺においては、その美しさが伝わるように外観ファサードや歩道等に面する部分への照明演出を行いましょう。



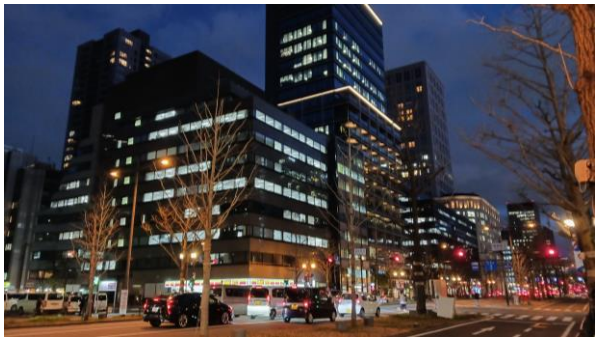
・低層部の開口部や漏れ光のあかりを見せることで、安全で快適な歩行環境を創出し、歩行者等が身近に感じるあかりの演出を行いましょう。

低層部のあかりを道路に向けて親近感を感じられるものとする例

間接光や漏れ光でパブリックな空間を照らす例

・ライトアップに際しては、間接照明を心掛け直接あかりが見えないように配慮しましょう。2 階以下の低層部については、にぎわいを演出する、 3 階以上の中高層部については、風格を演出するという視点で、それぞれの対比も考慮して夜間景観を検討しましょう。
・低層部のライトアップや漏れ光をつなげていくことで、通りのにぎわいを演出しましょう。
・土佐堀通～中央大通の、照明により 50m 軒線を際立たせる取り組みを行っているエリアでは、周囲のビルとのまちなみも考慮した夜間景観を検討しましょう。

2 階以下低層部のにぎわいを演出した例



50ｍの軒線をライトアップで際立たせた例

・沿道には近代建築など大阪都心部の歴史を物語る建築物が点在し、照明による演出で夜間景観に深みを持たせましょう。

近代建築と現代建築を対比させたライトアップの例

近代建築をライトアップした例

・主要な道路からの眺めに配慮し、効果的な建物へのライトアップにより周辺の歴史的な建築資源への視線や軸線を誘導する工夫を行うなど、夜間景観の演出に努めましょう。
・上質で温かみのある色温度とするなど、御堂筋のイチョウ並木のライトアップとの関係に配慮した照明計画を検討しましょう。

50ｍ軒線のライトアップにより軒線を誘導する例

光のイベントによる時節に応じた夜間の魅力創出の例

景観コラム　場所の魅力を磨きあげ シビックプライドを育む 夜間景観

～国際観光都市に求められる現代の夜間景観づくりとは～

今日の都市においては、生活時間やアクティビティの変化に伴い、人々が住み、働く環境において「安全で心地よい夜間環境」は必須であり、また多くの観光客を迎えるまちでは「まちの個性を魅せる美しい夜景」はキーファクターとなっています。大阪市は日本屈指の商都であるとともに、多くの外国人観光客の訪れる国際観光都市として発展しており、そういった意味で、住み手・働き手・観光客にとってより快適で豊かさを感じる良好な夜間景観の整備の必要性は年々高まっているといえるでしょう。

では、良好な夜間景観をつくるには具体的にどのような環境でしょうか。

良好な夜間景観とは

日本の多くのまちで、照明は無造作に設置されそのまま LED 化されている状況になっています。しかしながら、それで良いのでしょうか？照明器具を、ただ明るさをとるために設置していた 50 年前のやり方では、まちの総合的な夜景魅力は創ることができません。美しく機能的でまちに誇りを持てる照明整備のコツは、以下のポイントにあります。

① 鉛直面（壁や樹木の幹など視野に入る縦の面）の明るさ感があるか。

② 色温度が考えられているか。（LED は白色ばかりではありません。電球色で統一された環境は上質で落ち着いた印象となります。施設の特徴やまちにふさわしい色温度の検討は重要です。）

③ 不快なまぶしさ（グレア）が無いこと。（まぶしい光のまわりはかえって暗く見えます。照明器具が目立つのではなく、建物や環境を引き立てるあかりを目指します）

写真 1）従前）白色の街路灯のグレアが強く、樹木が暗がりを作っている環境

写真 2）従後）色温度を電球色（3000K）で統一し、樹木のライトアップなど目に見える鉛直面に間接照明を入れ「明るさ感」が高められた事例

効果的な手法とは

良好な夜間景観づくりを目指すとき、どのようにすればそれが実現できるのでしょうか。専門家にアドヴァイスを受けることは近道ですが、そうでない場合でも、以下のポイントをふまえてみましょう。まちは１つ１つの建物の集合体です。それぞれが「まちのあかり」を意識することで、素晴らしい夜間景観につながります。

① 建築ファサードの印象を創る

建物の正面の印象を整えます。壁のライトアップや窓から漏れるあかりなどを意識し、暗がりにならない陰影のある表情が理想です。色温度を 3000 ケルビン以下にすることもコツです。（写真 3）

② 樹木のライトアップを行う

樹木が 1 本でもあれば、真下からライトアップしてみましょう。足元に緑地が無ければ埋設する手法もあります。また低木や地被類だけの植栽であれば、植栽だけを照らす間接照明型の庭園灯もメーカー各社から発売されています。（写真 4）

写真 3）まちの歴史を語るような民間建築は規模が小さなものでも、夜間景観の重要なランドマークとなります

写真 4）樹木のライトアップが安心感と施設の品格を創りだします。1 本ずつ視点場側の真下から照らすことがポイントです

③ デザインコードを統一する

「和」のデザイン・欧州クラシックスタイル・裸電球・・・など、照明器具で建物の個性を高めたり、界隈のイメージを創り出すことも可能です。取り入れるデザインコードを吟味し、エリアのイメージがある場合は意識して取り入れます。（写真 5,6）

④ 間接照明を取り入れる

滞留空間のベンチや大きな壁面などには間接照明を取り入れてみましょう。
建物や広場などの安心感と品格を高める効果があります。（写真 7）

写真 5.6）まちの特徴を活かしたデザインコードで民間照明を統一することで、高い景観価値を生み出している事例（左：マールブルク・ドイツ、右：烏鎮・中国）

写真 7）ベンチの間接照明は広場や公開空地の価値を高めます

⑤ 見通しを意識する

まちの中での見え方を意識し、通りから見える壁やビルディングトップのライトアップなど遠景からのビューに貢献するあかりづくりがまちの価値を高めます。（写真 8）

写真 8）川からの見え方を意識した、美しい河川夜間景観。建物の特徴を活かしたライトアップはまちと建築の価値を高めます

大阪市都市景観委員会（デザイン）　長町　志穂（大阪大学大学院非常勤講師）